

2023年4月4日

アジア研究図書館

『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』 (アジア研究図書館叢書2, 3) 第2巻・第3巻刊行報告	1
ミャンマーのACCU寄贈資料の整理に携わって(チンガイリャン)	2
ACCU識字教育資料・南アジア諸語蔵書整理を終えて(谷ロカ光)	4
第4回TRCCS台湾漢学講座参加記(河野正)	6
連載 奇著・好著 — “書痴学” の勧め— 第6回 曹全碑(東京大学アジア研究図書館デジタルコレクションより)(佐川英治)	7
アジア研究図書館利用案内	
次号の予定	
編集後記	

編集・発行: 東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門
(RASARL)

〒113-0033

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学附属図書館 アジア研究図書館担当

asialib@lib.u-tokyo.ac.jp

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia>

『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター 識字教育資料目録』(アジア研究図書館叢書 2, 3) 第 2 巻・第 3 巻刊行報告

アジア研究図書館研究開発部門 (RASARL) は、昨年度にひきつづき、2023 年 3 月にアジア研究図書館叢書の第 2、第 3 巻として『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録』(以下、『ACCU 目録』と略す) の第 2 巻、第 3 巻を刊行した。

本目録は、公益財団法人ユネスコ・アジア文化研究センター (ACCU) から 2014 年に受贈した識字教育資料全 3,487 点を整理し目録化したものである。本コレクションを受贈するに至った経緯、本コレクションの概要、本コレクションが有する意義などについて、簡便には弊館ニューズレター第 7 号¹に掲載された河原弥生稿、詳細は『ACCU 目録』各巻に収録された解説の参照を希望する。ここでは、本コレクションの概要を前者から引用するにとどめる：

「本コレクションは、ACCU が 1980 年代からアジア太平洋地域において展開してきた識字教育事業に関する資料群であり、文字を読み書きできない成人のための学校外 (ノンフォーマル) 教育の教材であることを特徴とする… (中略) …教材の内容は、乳幼児の健康や栄養、農林水産業の知識、環境汚染、森林保全、母子保健、女性の識字教育の必要性など、日常生活の改善に直接役立つものとなって

いる。また、英語版モデルから各国語版が制作された共同開発素材の場合には、各地域の文化的相違が反映され… (中略) …多様な研究分野に資する一次資料である」

(ニューズレター第 7 号 1 頁より)

今年度出版した第 2 巻では、オセアニアおよび東南アジア各国 (オーストラリア、フィジー、インドネシア、カンボジア、ラオス、ミャンマー、マレーシア、フィリピン、パラオ、パプアニューギニア、ソロモン諸島、タイ、ヴェトナム) の諸資料、第 3 巻では南アジア各国 (バングラデシュ、ブータン、スリランカ、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン) およびその他の諸資料の書誌情報を収録する。

本コレクションは、多様な言語資料で構成される。学内外の大学院生や研究者からのご協力がなくては完成しえなかった²。

『ACCU 目録』作成に携わったすべての方々に、改めて満腔の謝意を表明したい。

以下に掲載する文章は、『ACCU 目録』のそれぞれ 2 巻と 3 巻の作成に携わった学生から特にご寄稿いただいたものである。今回の刊行に至る経緯、また資料群の内容の一端を知る縁となろう。

¹ https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sites/default/files/150-UTARLnews_07_20220401.pdf

² ご協力いただいた方々の御芳名は目録各巻の「解説」に記載している。『ACCU 目録』第 1 巻編集時の、東京大学の学生支援事業の援助を受けた学生との協働による整理については、ニューズレター第 7 号の 3 頁以下を参照されたい。

ミャンマーの ACCU 寄贈資料の整理に携わって

チンガイリヤン

(東京外国語大学大学院総合国際学研究所 博士後期課程)

筆者は 2022 年から 2023 年までミャンマーの ACCU 寄贈資料の整理に携わる機会をいただいた。整理の勤務にあたって、ミャンマーの翻字の書き方、資料の整理に重要な項目と整理の仕方を学ぶことができ、そして ACCU から寄贈された貴重なミャンマーの資料に触れることができた。その多数ある資料の中で、特に関心を惹かれた二つの資料を紹介したい。

写真 1 は、CHILD-to-Child, Save the Children Fund, TALC によって出版された絵本であり、楽しい玩具の作り方について絵で説明されている。

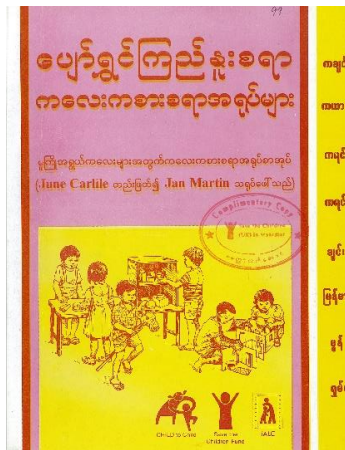


写真 1 : MMR_069

ပျော်ရွှင်ကြည်နူးစရာကလေးကစားစရာအရပ်များ : မူကြိုအရွယ်ကလေးများအတွက်ကလေးကစားစရာ အရပ်စာအုပ်
『楽しい玩具：幼稚園の子供達のための玩具の絵本』(筆者の訳)

この本ではお金をかけなくても周りにある道具や物を使って子供が楽しく遊べる色々な玩具が作れることが学べる。その上、この本の特徴はカチン、カヤー、スゴー・カレン、ポー・カレン、ティディム・チン、ミャンマー、モン、シャンというミャンマーの 8 言語を用いて書かれていることである。そのため、この本一冊でミャンマーの主な民族の言語の文字と書き方が分かる。筆者もこの本の整理のために、各々の民族の言語の文字と書き方について調べる機会をいただいた。

写真 2 は “Mina Smiles” 「ミナの笑顔」という日常生活における読み書き・計算の大切さを理解してもらうために、ACCU によって出版された絵本である。

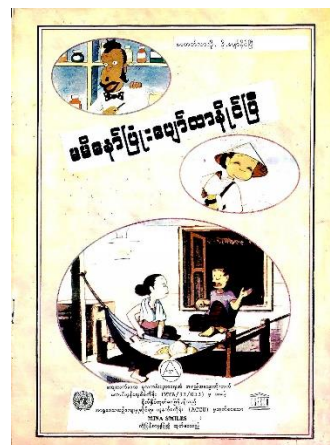


写真 2 - MMR_073

မိမိနော်ပြုံးပျော်လာနိုင်ပြီ
「ミナの笑顔」(ACCU による訳)

内容はある村に住む 5 人の子どものお母さん「ミナ」があることをきっかけに、識字クラスに通い始め、知識を得て、自分への自信を取り戻せたことである。この絵本はビデオの版もあり、筆者の幼い頃はよくテレビに放送されていた。当時はミナのキャラクターも好きであった。この絵本（またはビデオの版）は読み書きができるために励むべきことを理解させる一つの貴重な資料である。この絵本と同じく、ACCU 出版の他のミャンマー語版の絵本も寄贈された資料で含まれている。

ACCU 寄贈資料の中で、多数の学外教育向けの資料を整理できた。学校で教えられていない、日常生活や人生の中で重要なことがこれらの資料から勉強できるため、このようにミャンマー人に学外の知識を得るための機会が与えられていることに感謝している。

ACCU 識字教育資料・南アジア諸語蔵書整理を終えて

谷口 力光

(人文社会系研究科 博士後期課程)

筆者はサンスクリット語で書かれた文献を主な一次資料として、中世南アジアの法制史を研究している。

本年度は、デーヴァナーガリー文字で表記される諸語—ネパール語、ヒンディー語、マラーティー語など—と、それぞれ異なる文字で表記されるベンガル語、グジャラート語、カンナダ語、オリヤー語、テルグ語、タミル語の資料の整理作業に携わることができた。

サンスクリット語は古写本では様々な文字を使って表記される。写本で馴染みのある文字や二次資料で使われる言語として、これらの諸語に（少しばかりは）慣れ親んできた経験がこの作業で活かせたと思う。

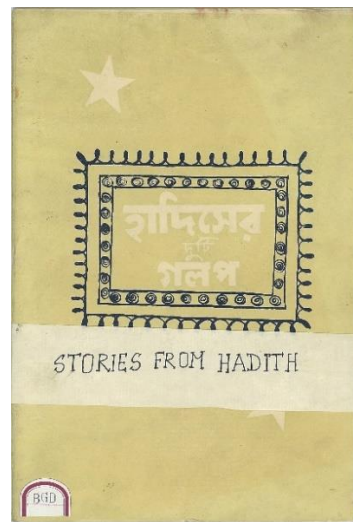
ACCU 識字教育資料は 25 カ国で収集された 3,492 点からなるコレクションである。冒頭で挙げた言語で公開された資料数は合計で 929 点なので、コレクション全体のおよそ 4 分の 1 を占めることになる。

その中でも特に注目を促しておきたいのはベンガル語資料の豊富さだろう。

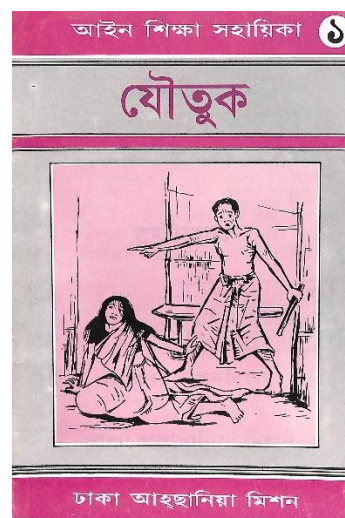
ベンガル語は主にインド共和国西ベンガル州とバングラデシュ人民共和国で使用されている。バングラデシュ国内で刊行されたベンガル語資料（一部は英語も含む）は ACCU 識字教育資料の中で 421 点ある。

これらは実際には識字教育資料だけでなく、ダウリー（結婚持参金）や離婚、ハデイス、トイレの作り方などといった幅広いジャンルの啓蒙的な、実践的な資料を含んでいる。これらの資料の読者層を考慮す

れば、どのような知識が国民生活の基礎として望まれてきたのかを探るための有益なコレクションであるといえるだろう。



BGD_409 (*Hadisera galpa*)



BGD_322 (*Yautuka*)

ベンガル語資料がこれほどまでに豊富であるのは単に資料収集の偏りからくる偶然ともいえるかもしれない。しかし、ベンガル語をめぐってバングラデシュで展開された政治運動＝言語運動（Bhāshā Āndolana）＝などとの関連にも注意しておきたい。

筆者がバングラデシュ刊行資料の蔵書整理をほとんど終えた 2 月 21 日は、奇しくもバングラデシュの祝日「言語運動の日」でもあり、UNESCO による国際母語デーでもあった。ACCU 識字教育資料の整理作業を通じて、言語や国民教育をめぐる運動を追体験するような貴重な経験を得ることができた。

第 4 回 TRCCS 台湾漢学講座参加記

河野 正

(国士舘大学 21 世紀アジア学部 講師)

2022 年 12 月 22 日、総合図書館大会議室にて第 4 回 TRCCS 台湾漢学講座が開催された。本台湾漢学講座は台湾漢学リソースセンター (TRCCS) 提供による講座である。東京大学においては 2015 年に附属図書館・台湾国家図書館間で協定が結ばれた後、2 年に 1 度のペースで開催されてきた。第 3 回が開催されたのは 2019 年 7 月であり、本来ならば 2021 年度に第 4 回が開催されるはずだったが、新型コロナウイルスの流行と水際対策の影響により開催が見送られ、2022 年度に開催される運びとなった。新型コロナウイルスの流行が少しでも落ち着き、対面開催の障害を少しでも減らすため、台湾の会計年度末に当たる 12 月末での開催となった。

今年度は国立成功大学より陳益源特聘教授により「《金雲翹傳》對世界的影響 (『金雲翹傳』の世界への影響)」と題した発表が行われた。陳教授は中国古典文学およびベトナム漢文学の専門家であり、本発表のテーマとなる『金雲翹傳』は明末清初に青心才人なる人物によって書かれた小説である。『金雲翹傳』は中国内外に影響を与え、特にベトナムでは阮攸によって翻案され、大きく影響を与えた。陳教授による発表は『金雲翹傳』のベトナム化、ベトナムの『金雲翹傳』の地方化、国際化の過程について論じたものである。

当日の発表は総合図書館大会議室と ZOOM の双方を利用したハイブリッド形式で行われた。陳教授による発表の後、会場

およびオンラインの参加者からは様々な質問が行われ、『金雲翹傳』の中国における位置づけ、ベトナム語版への翻訳の過程、ベトナム国内での版本の異同、近代における反植民地運動への影響、また翻訳者である阮攸の北京往復のルート等について質問がなされた。陳教授からの返答とともに活発な議論が行われた。

次回、第 5 回 TRCCS 台湾漢学講座は 2024 年度に開催される予定である。その際も盛会を期待したい。



第 4 回 TRCCS 台湾漢学講座ポスター

連載 奇書・好著 — “書痴学”の勧め — 第6回

曹全碑

(東京大学アジア研究図書館デジタルコレクションより)

佐川 英治

(人文社会系研究科 教授 / アジア研究図書館 館長)



図1

画像4枚目。本来は碑の1行目の文字を6文字ずつ切って貼り直している。

曹全碑は2世紀末の曹全という人物を顕彰した碑で、漢代の隷書を代表する優品として日本でもよく知られている。碑の高さは253センチ、幅は123センチ、一行45字、全20行にわたる大碑である。現在は西安の碑林博物館にある。この碑は建てられてからそう遠くない時期に碑陽（碑の表）を下にして地中に埋まったようで、明代に発見されたときは碑陽の文字は1字も欠けるところがなかった。その後、明末に大風で倒れた樹の下敷きになって碑が二つに折れたりして徐々にいくつかの字を失っていった。袁維春『秦漢碑述』（北京工芸美術出版社、1990年）によれば、さらに清の咸豊

(1851-1861)・同治(1862-1874)の時期には10行目の「月」の字が損なわれ、光緒(1875-1908)のときには2行目の「遷」の字に傷が加わった。アジア研究図書館デジタルコレクションには二つの碑帖があるが、いま南葵文庫(A005603)のほうで見ると、画像15枚目の「年三月除郎中」の「月」は欠ける一方、画像5枚目の「土斥*竟子孫遷」の「遷」は無傷であるから(図2)、この碑帖は咸豊・同治から光緒の間に採られた拓本で作られたのかも知れない。



図2

右側の「三」の下の傷は断裂痕。

曹全はこの碑が発見されなければ歴史に名を残さなかった人物である。彼は西域戊部司馬となって疏勒（現在のカシュガル）への遠征に参加したり（このとき『後漢書』に「曹寛」として一度だけ出てくる）、党錮の禁にあつて七年間も自宅で謹慎処分を受けたり、現在の甘肅省にあった祿福県という県の長官であつたときに県内におよんだ黄巾の乱の動揺を鎮めたりと活躍したのち、現在の陝西省にあつた郃陽県という県の長官となった。曹全はこの県で数々の仁政を敷いたようで、後漢霊帝の中平二年（185）に彼の属僚や県下の人々がその功績を頌えるために建てたのがこの碑である。



図 3
画像は 21 枚目から 22 枚目にかけて。

それにしても後漢時代の県というのは全国に 1000 以上もあつて、善良な県令はほかにも多くいたであろう。そのなかにあつてどうして彼にはこのような立派な顕彰碑が建てられたのであろうか。実は中国で石

碑が多くなるのは 2 世紀の後半であり、主に死者を頌える墓碑などの顕彰碑が多く建てられるようになる。その背景にあるのが、当時の朝廷を壟断していた宦官・外戚に対する怨みと学徳のある人物が正当に報われないことへの不満であつた。この碑にも「旧姓及び修身の士、官位登らず、君は乃ち縉紳の徒の濟われざるを閔れみ」とあつて、当時の郃陽県の名望ある人々の官界進出に曹全が心を砕いていたことが書かれている（図 3）。そのような人々にとっては曹全のような立派な人物が一地方の県令に埋もれていること自体が政治の腐敗の証であつて、当時にあつて碑はこのことを訴える格好のメディアであつた。名文や名筆で書かれた碑は、評判が広まれば多くの人が写しに来たのである。

残念ながらこの碑は曹全を中央の政界に押し上げる力を持たなかつたようである。もしかしたらかえつて朝廷からの警戒を招いたかもしれない。建安十年（205）、献帝を操る曹操は、薄葬令を出して人々が勝手に碑を建てることを禁じた。内容が事実とそぐわないと見なされた碑は倒されもした。もしかしたら、このときに曹全碑も倒すことを命じられたが、彼を慕う人々によってそつと傷つけないように埋められたのかもしれない、というのは私の想像のしすぎであろうか。いずれにしてもこの碑は千数百年のときを超えて、見事に曹全の生きた証を伝えたのである。碑陰には建碑に協力した人々の名前が記されているが、風化が進んで碑陽ほど美しくなく、碑帖には入っていない。

* 「斥」字は実際には「广+干」字（編者注）



アジア研究図書館利用案内

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/asia/user-guide>

場 所	総合図書館4階
開館日／閉館日	総合図書館の開館日・閉館日に準じます。
開館日	以下閉館日を除くすべての日
閉館日	年末年始(12月28日～1月3日) 定例休館日(おおむね毎月第4木曜日) 夏季の一斉休業日(2日間) 試験等大学行事のための閉館日 その他臨時閉館日

開館時間

	曜日等	通常期	8月・3月
	月～金曜日	8:30～22:30	8:30～21:00
	土・日・祝日	9:00～19:00	9:00～17:00

学外の方もご利用いただけます。詳しくはホームページをご覧ください。

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/user-guide/outside/gakugai>

次号の予定

第12号は令和五年七月三日に発行予定です。

ニューズレターへの情報提供、投稿や、記事へのご要望があれば、東京大学アジア研究図書館 ([asialib\[at\]lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:asialib[at]lib.u-tokyo.ac.jp))までお知らせ下さい。

編集後記

第11号をお届けします。

冒頭で記しましたとおり、『アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化研究センター識字教育資料目録』の第2巻・第3巻を無事に出版することができました。改めて関係各位に深謝申し上げますとともに、当資料群が多く研究者に利用されることを期待しています。(J)